

ありがとう

日野沢のバス停に椅子

重木に住む高齢の方、バスに乗るのに沢辺のバス停まで歩きます。膝に痛みがあり、下り坂は特に大変、後ろ向きに負担がかからないようゆっくり歩いておられるそうです。

1キロ歩くのは大変！

これを聞いた日野沢の方が、沢辺のバス停に椅子二脚を作ってくれました。折りたたみ椅子を持ってきたくれた方もいます。タオルを用意してくれた方、みなさんの心遣いに感謝です



もう バスのステップを

登る力がない！

バスを利用しようと、藤原から最寄りのバス停「岩鼻」まで歩くのに1時間。やっと着いたと

思ったらバスがすぐ来て、バスに乗るうにも、疲れてバスの階段が登れなかつたそうです。

これらは、二か月程前のお話です。高齢者の方など、安心して住み続けられる手立てがもっと必要です。

『 母校が泣いている 』

伸びた木々の葉陰に身の惨めさを隠すようにそっと佇む学舎。ずっと昔、私はその学舎から巣立ったのでした。

久しぶりに故郷に戻るようになった時は、生徒数の減少で閉校となっていました。

寂しさを感じたもののなつかしさにひかれ、橋を渡り校舎を見上げ感謝することができました。

教室の仕切りをはずし、机の足を結んだにわかづくりの舞台で2日間にわたって行われた学芸会、狭い校庭を300人を超す生徒が囲み、村総出で行われた運動会など、子どものころへの郷愁に浸ることができました。四季の移り変わる中の校舎は無人になったとはいえ、私にとつ

て昔と同じ威風堂々の学舎だったのです。

それが、昨年からです。奇異とも思える校舎に変貌したのです。

窓にはさまざまなお知らせが貼られ、窓際には書籍やら置物が乱雑に積み上げられ、子供のころ「整理整頓」を教えられたはずのその校舎が教えとは逆の姿に変わったのです。

もう橋を渡ることは許されませんでした。それでも待ちました。新しい時代に生き、地域に寄与する校舎になると信じていました。

しかし、荷物は徐々にふえる気配はあるものの、私が願う方向に進む姿は見い出せませんでした。

夏が過ぎようとしている今は、建物の一部に蔓が絡み、校庭には雑草がはびこり美観を損ねています。母校が泣いているように感じます、

この学舎に育てられた私は悔しくて泣くこともできず、憤りだけが喉につかえています。《何とかして下さい！》

旧日野沢小学校

卒業生からの投稿



新米議員のひとりごと

常山 知子

私が高校に入学した年の二学期我が家にテレビが入った。白黒でNHKしか映らなかったが、東京オリンピックにしがみついた。おかげで二学期の成績は下がってしまった。そんな思い出がある。

二〇二〇年のオリンピック開催地が決まった。まさかの東京である。福島原発事故の汚染水の問題は払拭されたのか。決定された瞬間を何度も放送し、こんなに多くの日本人がオリンピック開催を東京でと待っていたような印象を受けた。本当にそうなのだろうか？

すでにマスクミは、経済効果は何兆円、雇用は何万人増えるとか伝えているが、それはオリンピック開催までのこと。本当に景気を回復させる為には、消費税増税、年金の削減などもつてのほか。

正社員があたりまえ、働く人の賃金を上げることこそ今すぐやることではないか、働く人を使い捨てにするブラック企業におしおきを、(雇用のヨロコ)

大企業の内部留保を賃上げに！

原発ゼロこそ経済に展望ひらく！

生活・法律相談 お気軽にご相談下さい

町議会議員 常山 知子

電話・FAX 62-6733

